

校 長 だ よ り

令和 8 年 1 月 9 日
大阪市立大正東中学校
No. 1 0

新年あけましておめでとうございます。保護者や地域みな様には、本校教育活動の推進にご支援ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

これからも学校・家庭・地域が一体となった教育活動に取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は、「午（うま）年」に当たります。午年は、前進・発展・成功を象徴し、「うまくいく」「馬が合う」などの言葉にも通じる縁起の良い干支で、特に 2026 年の丙午（ひのえうま）は力強く物事が進む年とされ、目標達成や開運に最適です。神社では神様の使い「神馬」とされ、絵馬のルーツにもなり、運氣上昇、商売繁盛、交通安全、勝負運などのご利益があるとされています。

丙午（ひのえうま）とは、干支の組み合わせの 43 番目にあたり、十干の「丙（ひのえ）」と十二支の「午（うま）」が組み合わさった年を指します。

「丙」と「午」どちらも火の性質を持つことから、丙午は火の力を象徴する年とされます。

8 日から 3 学期がスタートしました。3 学期は、次年度に向けての大切な学期です。3 年生は、あと 64 日（登校する日は、43 日）で本校を卒業し、新しい世界に踏み出していきます。その前には、入学試験・就職試験という一つの壁を乗り越えていかなければなりません。また、入学・就職後もいろいろな試練が君たちを待ち受けています。1・2 年生も学年が進むにつれ新たな課題が生まれてきます。みんながそれぞれの課題に直面し、その壁を乗り越えていかなければなりません。そんな壁を乗り越えられるかどうかは、君たちの考え方で大きく変わってきます。そんな壁に立ち向かっていくとき、壁を乗り越えられるかどうかは、君たちの考え方、心の持ち方で大きく変わってきます。

次の話を読んで考えてみてください。

ある二人のサラリーマンが靴を売るためにアフリカのある村に派遣されました。しばらくして一人の社員から会社へ電話がありました。

「社長、ダメですよ。ここの村の人たちは、みんな裸足です。こんなところでは、靴は売れませんよ」

もうしばらくして、もう一人の社員から電話がありました。

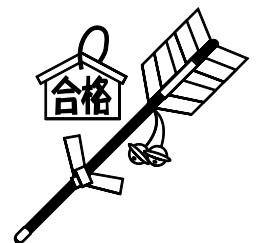
「社長素晴らしいですよ。ここの村の人たちは、まだ誰も靴のことを知りません。靴のよさを知らせれば、どんどん売れますよ」

はじめの社員の考え方をマイナス思考といい、後の社員の考え方をプラス思考といいます。プラス思考の人の周りには多くの人が集まり、良い運がどんどん巡ってきて、仕事もはかどり、成功へと進んでいきます。一方、マイナス思考の人の周りには不平不満の愚痴ばかりで人が離れていき、作業は進まず、失敗の繰り返しになってしまいます。

では、プラス思考になるためにはどうしたらよいのでしょうか。そのためには、自分の周りの人全員の良い点を言えるようになることです。人は良い点よりも欠点が目に付いてしまいます。良い点はなかなか見つけにくいものですが、それをあえて見つけようとするところにプラス思考が育ちます。

人間は不思議な脳を持っています。皆さんの脳が皆さんの将来の出来事を作り出していくといわれています。悪いことばかり考える脳の持ち主には、悪いことばかりが引き寄せられて起こるし、良いことを考える脳の持ち主には、良いことが起こるものです。

新年にあたり、自分がめざすビジョンをしっかりと持ち、プラス思考で頑張っていきましょう。



『本気』 坂村真民

熊本県生まれの詩人。終戦後に愛媛県で教師となり、「念ずれば花ひらく」など、多くの詩を残されています。努力を惜しまず、自らの力で自分の未来を切り拓く1年にしてください。



3年学年末テスト

3年生にとっては中学校生活3年間の総決算、入学試験を直前に控え、自分自身の学力到達度の最終チェックです。これまでの学習の成果をしっかりと発揮し、悔いの残らないようベストを尽くしてください。



学年末テスト	1 限	2 限	3 限	4 限
1月28日(水)	国 語	社 会	保健体育	給食
29日(木)	数 学	音 楽	美 術	給食
30日(金)	理 科	英 語	技術・家庭	給食

1・2年大阪府中学生チャレンジテスト・

1年生 大阪市チャレンジテストプラス

大阪府チャレンジテスト目的

- ①大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、テスト結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

大阪市チャレンジテストプラス目的

- ①大阪府教育委員会が、生徒の学習状況を客観的に把握し、指導改善につなげるために実施しています。
- ②生徒一人ひとりの理解度や苦手分野を具体的に把握し、保護者や生徒自身が目標を持って学習に取り組めるようにします。
- ③学校はテスト結果を分析し、個々の生徒への効果的な学習指導や進路指導に役立てます。
- ④大阪府の公立高校入試における内申点（調査書の評定）の公平性を確保するための資料としても使われます。学校ごとの評価のばらつきを調整する役割があります。

これまでの学習内容をしっかり振り返り、「チャレンジテスト（1・2年生）」「チャレンジテストPlus（1年生社会・理科）」に臨んでください。

1月14月(水)	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
1年生	国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
2年生	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語

